

# ペナン日本人学校 帰国報告

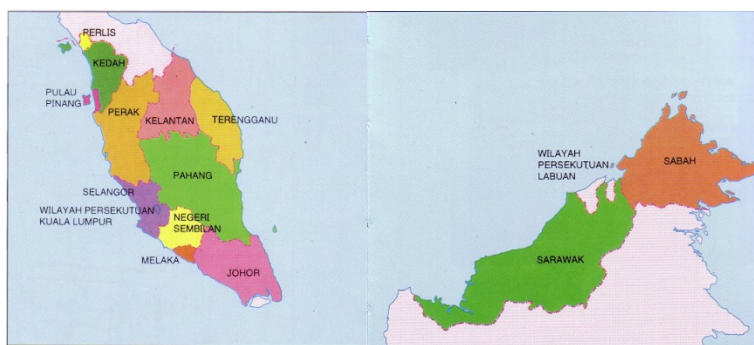
帯広市立緑園中学校

教諭 山崎慶太

## 1 マレーシア・ペナンの概要

### (1) 移住したい国第1位

マレーシアは、面積が日本とほぼ同じ大きさである。タイ王国と接するマレー半島とインドネシアと隣接するボルネオ島とで構成されている。人口は約3000万人。その中で、マレー系、中国系、インド系、そのほかの先住民民族などによって構成されている多民族国家である。様々な言語、宗教などお



【ペナンの州旗】

互いの考えを尊重しあいながら、協力して生活をしている雰囲気を感じる。このマレーシアは、近年日本人が移住したい国の1位を獲得し、MM2H（マレーシア・マイ・セカンド・ホーム）の制度を利用して、ロングステイをする日本人が増えてきている。

私が勤務したペナンは、首都のクアラルンプールから飛行機で1時間の距離にあり、「東洋の真珠」「東洋のエメラルド」と呼ばれる国際的な観光地であり、近年は中東の人達のリゾート地の1つとなっている。2008年にマラッカとともに世界遺産に登録されたジョージタウンは、イギリスの植民地時代の建物だけでなく中国系、インド系などの建物も多数あり、それぞれの文化を融合した街並みが、今なお残る場所である。

観光地の一つであるガーニードライブ沿いには、大きなショッピングモールやホテルが建てられているが、島の西側や南側にはやしの木々の間に昔ながらの高床式の家が点在し、モスクからはアル＝クルアーン（コーラン）が聞こえてくる静かなカンポン（村）がある。しかし最近では、このカンポンにも開発の波が押し寄せ、あちこちに大きなコンドミニウムやビルが建ち始めている。

島の対岸バタワースとは約14kmのペナnbridgeで結ばれており、半島の各都市への南北縦断高速道路とも直結している。2014年には約24kmある東南アジア最長のペナン第2ブリッジが完成し、以前はバイクを利用して人々が車に乗り換え、街中は車の量が増え、渋滞緩和をするために一方通行が増えてきている。

ペナン州の在留日本人は約2,800人で、そのほとんどは島内に居住している。島内のバヤンレパスや対岸のバタワース地域、ペナン州北側のケダ州のスンガイ・ペタニ、アロースター、クリム地域に工業団地があり、これらの地域に約250社の日本・日系企業が進出している。

### (2) 現地校視察で知ったマレーシアの学校の様子

#### ① 訪問した学校

##### ・ Chung Ling High School

…ペナン州でもっとも優秀な学校。ほとんどが中国系の生徒で占めている。小6で受けた試験で

6項目中すべてAだった生徒が通っている。

・ Chung Hwa Confucian High School

…ペナン州で中堅の学校。視察したクラスは12クラス中6番目に優秀なクラスであった。クラス替えは成績順に行われる。

・ Smk Bkit Jambul

…ペナン州で上位に位置する有名な学校。マレー系の生徒が多い。

②各学校における授業

【Chung Ling High School の場合】

i ねらい 色により吸収する熱エネルギーの量が違うことを理解する

ii 指導法 プロジェクターを使って説明（教授型の授業）

iii 内容

- ・車の色の違いで温度上昇にどんな違いがあるか
- ・白いフクロウとシロクマはなぜ白いのか
- ・ペンギンは白い部分と黒い部分があるが黒い部分と白い部分はどうしてあるのか



iv その他（授業について）

- ・英語で授業をしていた。生徒が理解できないような専門的な説明の場合は言語が変わり、マンドリンで説明していた。
- ・生徒がノートをとるような場面はなかった。

v その他（学校について）

- ・日本では宿題や家庭学習を先生に提出した場合、コメントを書いたりするが、マレーシアの先生は書かない。宿題は授業中に先生が答えを言って、生徒は自己採点をする。この優秀な学校でさえも宿題をしてこない生徒がおり、先生が言う答えを聞いて記入している。
- ・学校の成績表は保護者が学校に直接取りに来る。
- ・卒業生の寄付によりつくられた教室は、入り口のところに寄付をした人の名前が表示してある。
- ・午前の部は2時半で帰宅 午後の部は19時半で帰宅
- ・教室にカメラが設置されており、生徒の安全を守っている
- ・食堂があり、休み時間に利用することができる。（麺類がRM1 ≒ 30円）
- ・食堂では先生方が食べる場所と生徒が食べる場所が分けられている。
- ・サッカー部もある。部員が少ないらしい。
- ・午前で授業を終えた生徒の中には塾で勉強する者もいる。学校の教室を借りて、民間の先生が授業を行っている。
- ・この学校は第二次世界大戦当時、日本軍に抵抗する中国系の人たちを援助していた。そのことから日本軍との衝突が起き、亡くなった人がいる。その慰霊碑が学校の敷地内に建立されている。

### 【Chung Hwa Confucian High School の場合】

i ねらい 人の血液型の遺伝の規則性について理解する。

ii 指導法 プロジェクターを使って説明（教授型の授業）

iii 内容

- ・ ABO式の規則性について、プロジェクターで試料を示しながら説明をする。

iv 授業者への質問と回答

Q：マレーシアにも理科離れはあるか。

A：ある。理科を嫌いと感じている生徒は多く、半分くらいが理科を苦手としている。

Q：理科離れを食い止めるためにしていることはあるか。

A：パソコンとプロジェクターで視覚に訴える授業。

Q：授業改善のための研修などはあるのか。

A：ない。

Q：授業において課題となることは何か

A：英語で授業を行っているので、英語が分からない人は授業についていけない。英語が分からないことで私語が増える。

v その他

英語力が低いことに課題があるとして、私がこの授業をすとしたら、どのようにするかを考えた。

#### 【展開】

：自分の両親の血液型と自分の血液型を確認し、本時の課題を明らかにする。

：血液型の遺伝がどのようになっているのか、教科書を使って遺伝の法則を読み取らせる。

：読み取った内容を説明させる。

：説明したことをノートに書かせる。

：ワークを使って、本時の授業内容の定着をはかる

英語を苦手としている生徒が多いことから、教科書の英語を自分で読ませ英語力を付けさせる。自分の言葉で説明させることで、話す英語力を付けさせる。話したことをノートに書くことで英作文の力をつけさせる。ワークを解くことで理科の知識理解を深める。

### 【Smk Bkit Jambul 校の場合】

i 本時の授業について

- ・マレーシアも日本と同様、生徒同士の対話を重視した授業が求められている。中2まではそのような授業を行っているが、中3になると受験があるので、問題演習の時間が多くをしめる授業となっている。
- ・今回の授業は、授業時間の3分の1は、プロジェクターを活用して、先生から生徒への教授型

であった。残り3分の2は、問題演習を行っていた。

- ・生徒は日本のように、ノートはとらない。先生も板書をほとんどしない。プロジェクターで示しながら説明をするので、生徒の顔は常に上がっている。
- ・教科書はマレー語、教科書に沿ったワーク（実験の目的、方法、結果、考察が書いてあり、穴埋め式、記述式となっている）は、英語とマレー語で書いてあった。
- ・成績順にクラス分けがされており、一番上のクラスを参観した。真ん中より下のクラスは、あまり先生の話を受けないとのことだった。

## ii その他

- ・この学校は、上級学校進学後使用する機会の多い英語教育に力を入れている。（以前は、マレー語に力を入れる政策だったが、英語にも力を入れるよう方針が転換された。政策が頻繁に変わるので、現場は大変であるとのことだった。
- ・ペナンでは、国民型学校は中国系の学校が多い。
- ・中国系の国民型学校は、中国語、マレー語、英語の三カ国語を学習する。マレー語は必須である。
- ・国民型学校は、予算の半分はマレーシア政府からの補助金でまかなっている。

## 2 ペナン日本人学校の概要、特色ある教育

### (1) 学校教育目標

P J S かがやきプランで表されている。

- |            |           |              |        |
|------------|-----------|--------------|--------|
| ○かんがえる子    | 自分の考えを持つ  | 伝える力をつける     | 「知」    |
| ○がんばる子     | 進んで体を鍛える  | 健康で安全な生活をする  | 「体」    |
| ○やさしい子     | けじめをつける   | 思いやりの心をもつ    | 「徳」    |
| ○きょうりよくする子 | 日本、郷土を愛する | マレーシア・ペナンを知る | 「国際理解」 |

学校教育目標の「かがやき」は、学部経営、学級経営、行事などすべての教育活動において、全教員が意識して計画・実行・反省を行う教育の羅針盤のような存在であった。児童生徒もこの目標のことをよくわかっており、いつでも言うことができた。ここまで身近な存在になっている目標を見聞きした経験がなかったので大変驚いた。



### (2) 具体的な日本の学校との違い

- ①小学部は45分、中学部は50分の授業を行い、小学部の休み時間を調整して、下校時間が小中学部で同じになるようにしている。（スクールバスを利用して一緒に下校するため）



- ②小学部4年生から中学部3年生までが、週に1回火曜日の7校時にクラブ活動をしている。(4時30分下校)
- ③中学部は、毎週金曜日の6・7校時に総合的な学習の時間を行っている。
- ④日本人墓地清掃を行っている。
- ⑤中学部は、年に5回土曜日に希望者を集めて、日本の業者より取り寄せた実力テストを実施している。
- ⑥漢字検定、英語検定、数学検定を年2回土曜日に実施している。教員で役割分担を行い、テスト監督をしている。
- ⑦英会話の授業を、小学部1年生から中学部3年生まで習熟度別4グループで行っている。(小学部は週2時間、中学部は週1時間)
- ⑧中学部は、毎朝10分間の朝読書と10分間の自主学習の時間を設けている。
- ⑨水泳の授業を毎年週1回実施している。(専門のローカルスタッフと、体育科担当教員で指導)
- ⑩民族音楽鑑賞会を実施している。(マレー系、中国系、インド系を3年1サイクルで行っている)
- ⑪職員研修を年に2回休日に実施している。(企業研修とペナンの歴史文化自然を学ぶ研修)
- ⑫引き渡し訓練を行っている。不測の事態に備え、保護者、児童生徒に日時を知らせずに実施している。その際、保護者はあらゆる手段を使って子供を学校に迎えに来る。
- ⑬教職員は、日本人会の行事に積極的に参加し、運営に関しても協力している。(盆踊り大会、餅つき大会、ソフトボール大会など)



引き渡し訓練

### 3 在任中の教育実践

#### (1) 地域素材を取り入れた授業実践

ペナン日本人学校でも日本と同様、校内研究を行っている。平成26年～28年の研究主題は、「各教科、道徳、総合的な学習の時間に地域資料を取り入れた現地理解・国際理解教育の推進」で、研究仮説を「マレーシア・ペナンにある海外日本人学校という本校の特色を生かして、この地域のことを教材にした授業を計画的に実施することによって、児童・生徒の現地理解教育、国際理解教育を推進できる。」であった。仮説に基づき、私が行った授業実践の1つを紹介する。

#### 【中学1年地学領域 単元名：大地の変化 第2章：地層】

ペナン島の海岸の砂浜は、風化し、目が細かく美しい白色をしている(図1)。砂浜の砂を顕微鏡で観察してみると、中学校で学習するセキエイ・



チョウ石・カクセン石・クローンモ・その他の有色鉱物からできていることがわかる（図2）。砂浜の砂の観察は、教科書で得た知識を活用する意味でも価値ある教材と考える。

本時では、双眼実体顕微鏡による砂の観察から、砂が火成岩をつくる鉱物であることを知り、そこで生まれた「これら鉱物がどこから来たのか」という課題に対して、これまでの学習で得た知識を活用しながら解決に向かうようにした。自分なりの考えをもち、足りないところは仲間の力を借りることで、その答えを導き出していけるよう授業を展開した。自分の考えは次の定型文に当てはめて、表現するようにした。

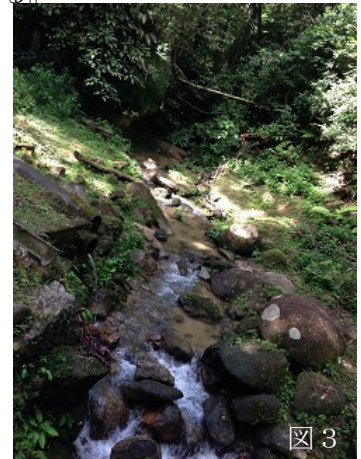


図3

### 【定型文】

「これらの鉱物がつくっていた火成岩は（ ）だと考える。  
その理由は、（ ・資料を指で示す ・推測する ）だからである。」

交流後、ペナン島の大部分を占める熱帯雨林のジャングルの中や道路切通しで見られる火成岩（花崗岩）（図3）をあらかじめ採取しておき、それらを細かく砕いた岩石片（図4）を観察した。その結果、ペナン島の砂浜をつくる鉱物と、ジャングル内の火成岩（花崗岩）に含まれる鉱物が一致したことから、長い時間をかけて火成岩（花崗岩）が砂へと形を変えていったであろうと結論づけた。



図4

### （2）卒業生が後輩に残したメッセージ「マレーシアのことを学んでください」

10月上旬の学校祭を終えたら、日本の高校に進学する生徒を対象に面接練習が始まる。日本と同じように、学校独自の面接の手引きが配布され、面接の基本を学ぶ。派遣1年目、半泣き状態の中学部3年生の姿を目にした。彼ら彼女らが頭を悩ましていた質問が「あなたが過ごしたマレーシアは、どんな国ですか」「あなたが過ごしたマレーシア・ペナンのことを教えてください」であった。何を答えても、面接官役の先生からOKがもらえないと、暗く沈んでいた。そしてその生徒たちが卒業するときに残した後輩へのメッセージが、「マレーシアのことをしっかり学んでください」だった。ペナン日本人学校の小学部では、世界遺産にも登録されているジョージタウンの学習や、農村部の見学日本企業の工場の見学等、さまざまな地域学習を行っている。しかし、中学部3年の生徒はペナンのことを知らない。それには在外教育施設の特殊性がある。ペナン日本人学校は、毎年約3分の1の児童生徒が入れ替わる。単純に3年経つとすべての人が入れ替わることになる。つまり、中学部3年生のほとんどは学校でペナンの学習をしていない。このことから、中学部でも自分たちが過ごしている地域、国のことを学習する機会が必要ではないかと感じた。そこで3つのことに手をつけた。

#### ① 世界遺産ジョージタウンを巡り、ペナンの歴史を学ぶ

総合的な学習の時間を使って行うことを考えたが、どうしても他の行事や時数の兼ね合いもあり、

髪を隠すため、スカーフを巻いてのモスク見学



実施することが難しい状況であった。そこで思い切って、これまで行っていた障がい者施設訪問をやめ、ジョージタウン巡りに置き換えることを提案したところ、企画会で了承された。そしてすぐに、物知りで日本語での説明が分かりやすいと評判のガイドさんに依頼した。事前、当日、事後の学習目標は次のように設定した。



#### 【事前学習】

- ・ジョージタウンにある歴史的・文化的建造物について、ガイドブックに書いてある程度の内容を話すことができる。
- ・疑問点を整理することができる。

#### 【当日】

- ・疑問点を解決することができる。

#### 【事後学習】

- ・ジョージタウンオリジナルパンフレットを作成することができる。
- ・小グループ内で作成したパンフレットを使い、学習したことやみんなに知ってほしいことを発表することができる。
- ・「私が過ごしたペナン」という題で、原稿用紙1枚程度の内容を話すことができる

## ② 修学旅行

ペナン日本人学校の修学旅行は2年生で行う。これまでボルネオ島にあるコタキナバルにて学習を行っていたが、平成27年に死傷者を出さず地震が発生し、行き先をタイのチェンマイに変えた。しかし、いくつかの課題が浮き彫りとなり、平成28年度の旅行先を再度検討することとなった。次年度の修学旅行を担当することが濃厚であったため、中心となって検討を行った。やはりこの時も、マレーシアで生活していながらマレーシアのことをほとんど知らない3年生の顔が頭をよぎった。そして迷わずマレーシアの首都クアラルンプールを中心とした修学旅行を提案した。その結果、提案を受け入れていただき、修学旅行でもマレーシアを学習することができるようになった。

#### 【修学旅行に組み込んだ学習】

- ・マレーシアの発祥について学べるミュージカル鑑賞
- ・マレーシアの代表的な料理教室
- ・マレーシアの文化を学ぶホームステイ
- ・日本語ガイドさんの案内による国立博物館見学、マレーシア独立に関わる建造物見学、マレーシアの近代化に関わる建造物の見学
- ・マレーシアの三大民族の、文化・宗教を知ることのできる施設見学
- ・マレーシアの植民地時代に関わる建造物見学
- ・マレーシアの政治の中核都市の見学



## ③ 職場体験

これまで勤務された先生方の努力により、日本領事館、幼稚園、日本人が経営する美容室、日本人スタッフが務めるホ



テルで行ってきた。学校から近く、子供たちの様子を観察しに行くのにも都合のよい場所にあった。しかし、私はペナンに進出してきた日本企業、日系企業で体験させることを望み、私が担当した年からお願いすることにした。その理由は、日本・日系企業がなぜペナンに進出してきたのかも同時に学習することができ、違う側面からマレーシア・ペナンを知ることができると思ったからである。進出してきた理由は、企業によって異なる。私が直接伺ったところ、A企業は、労働力が安く手に入る上に、マレーシアの教育水準が高いから。B企業は、イギリスが統治した国はインフラが整備されているから。C企業は、ペナンで作った製品は全世界に船で輸送しやすいから。D企業は、税金を優遇する措置がとられたから。E企業は、作った製品を販売するところに近いからとさまざまなであった。企業からの目線でペナンを知る学習機会をつくることができた。

平成28年度、職場体験を受け入れていただいた職場

- ・フマキラー ・東レ ・日本領事館 ・HOTEL JEN（日本人スタッフが常駐）

学習の目標を次のように設定した。

#### 【事前学習】

- ・訪問する企業、職場の概要を調べ、仲間に伝えることができる。
- ・職場でのマナーについて調べ、仲間に伝えることができる。
- ・アポイントメントの取り方を知り、実際に取ることができる。（英語を使って、日本人担当者までつないでもらう）

#### 【体験当日】

- ・事前学習で生まれた疑問の解決することができる。

#### 【事後学習】

- ・学んだこと、体験したことをオリジナルパンフレットにまとめ、小グループ内で仲間に伝えることができる。

### （3）現地校との交流

毎年中学部は、SMKブキツジャンブル校という学校において、選択教科で日本語を選択した生徒と交流を行っている。隔年で、訪問と受け入れをくり返している。毎年、主担当となる教員が中学部生徒を集め動機付けとなる授業を行う。私が担当した年は、授業の目標を「マレーシア人の日本に対する思いを知り、それに応えることができる」にし、次の2つを授業で取り上げた。①日本で行われる外国人日本語スピーチコンテストにおいて、平成25年度最優秀賞を授業したマレーシアからの留学生のスピーチ ②ペナンにおける日本語弁論大会において、日本でいう中学3年生のスピーチの原稿。2つとも親日的な内容で、交流会でその思いに応えようとする動機付けを行った。受け入れを行った年は、現地校の生徒とペアとなり、日本的な体験のできる3つのブースを一緒にまわっていく形態を取った。準備したブースは、①太鼓演奏 ②書道 ③お祭り であった。ペアになったことは、生徒のコミュニケーション力を高める上でも、国際理解教育を進める上でも、意義ある学習となった。中には、友だちとなり、連絡先を交換したという生徒もいた。





#### 4 生活全般

##### 【散髪とマレー系女性】

赴任したすぐのころは、言葉にも自信がなく、どこで髪を切れたらいいのかわからなかった。ペナンに来て最初の散髪場所は、いつも行くスーパーに入っている美容室にした。「全体的に1cm切ってください」と言ったはずなのに、バリカンが出てきて角刈りになった(30RM≒900円)次の日学校に行くと、「30RMは、ぼったくられてますよ」と言われた。毎回場所を変え、1年がかりで素敵な店に出会った。3年間で1度も日本人に会うことのなかったショッピングモール内にある中国系女性が営む美容室だった。日本人好みにカットしてくれ、息子と私で35RM≒1000円だった。2年間そこに通って、貴重な経験もさせてもらった。マレー系女性のお客さんとご一緒させていただいたのである。マレー系の女性は、頭にスカーフを巻いている。スカーフをとるのは家族の前だけと聞いていたので、どこか人目につかないところにマレー系女性専用の美容室があり、そういう所で髪を切っているものと思っていた。通い始めてから1年経ったころ、店内でマレー系女性と一緒に became。スカーフをかぶっていたのですぐにわかった。順番が来てその女性が案内された。すると何の躊躇もなくスカーフを取り始めた。日本人の男がいるのに！見てはいけないと思いつつ、横目で見た。色鮮やかなスカーフの下には、もう1枚黒いスカーフが巻かれており、その下には長い髪が、清潔にきつくまとめられていた。



##### 【交通事情と優しさ】

マレーシアはイギリスの植民地であったので、日本と同じく車は左側通行で右ハンドルである。私も違和感なく運転できた。しかし、バイクや車の多さは北海道から来た私にとって、たいへんストレスであった。道は常に混んでいた。また運転マナーも悪いため、3年間事故を起こさないことを祈る毎日だった。スリの被害に遭う危険性があるため、利用することを控えるように言われていたバスだが、自家用車の運転に自信が持てない1年目はよく利用した。乗ったは良いが、バスの強気の運転にはハラハラさせられた。ほとんど減速しないでカーブに突入する。車内の人がバランスを崩してもお構いなしだ。バスの運転を邪魔するような車に対しては、停車したときに窓を開けて、その車の天井を叩いていた。それでも私はバスが好きだった。バスに乗るときは、バス停で手を挙げて運転手にアピールをする。手を挙げないと止まってくれない。挙げたとしても運転手の気分で止まってくれたりくれなかったりする。そんなバスを100%止まらせる方法に私は気づいた。当時3歳の娘や5歳の息子に手を挙げさせたのである。子どもが手を挙げて止まらなかったことは1度もない。マレーシア人は子どもなどの弱者にとっても優しい。子どもを連れて行くと、笑顔で声をかけてくれる。お店でもニコニコだ。子どもと出かけると本当に気分が良かった。マニュアルとは違う内側からにじみ出るような優しいマレーシア人が私は大好きだった。

##### 【妻を通しての草の根国際交流】

妻は、現地の方と友だちになるのが上手だった。一番仲良くしていたのが、中国系の女性だった。子どもを通してのママ友だった。一緒に食事をしたり、現地の人しか知り得ない穴場と呼ばれる所へ連れて行ってもらったりしていた。また、同じコンドミニアムのインド系女性ともつき合いがあった。ご主人は世界を飛び回って仕事をされている方だそうで、日本の物をその方がからいただくことがあった。インド系の方から日本のインスタントラーメンをもらう日本人、変な気分であった。また、

インド人街にも一緒に行き、お店を紹介していただき、お土産屋さんでは高い値段で売られている品物も、安く購入することができた。

### 【治安】

職員研修で、警備を担当する領事から、ペナンの治安について話を聞いた。治安の良いマレーシアの中でもさらに治安のよいペナンであっても、犯罪発生件数からいくと日本のもっとも悪い地区より4倍悪く、危険であるとのことだった。時折、日本領事館より犯罪に巻き込まれないための注意喚起をうながすメールが届いた。それでも慣れてくると油断してしまう。そんな自分を初心にかえすため犯罪が発生したときの動画をよく見ていた。マレーシア警察は、防犯カメラなどで犯罪の現場をとらえた映像を You Tube にアップしている。どんな状況でどんな犯罪が行われているのかを見て、犯罪に巻き込まれないように気をつけて生活していた。実は、妻がいつもいくスーパーに行ったところ、ひったくりの被害に遭いそうになった。背後から近づいてきた二人乗りのバイクにバッグをつかまれたのである。体を半身にしてバッグを取られないようにするなどの知識があり、その練習をしていたことと、そして何よりも近くを歩いていたマレー系のご夫婦が、妻の体を押さえて転ばないようにしてくれたことから、被害には遭わなかった。ひったくりならまだよいが、誘拐の被害も報告されている。私は学級懇談会の折に、保護者と誘拐現場の動画を見て、子どもの安全を守ってほしいと話をさせていただいた。

### 5 おわりに

ペナンを後にして帯広空港に降り立つと、教え子たちが出迎えてくれた。「山崎先生お帰りなさい」と横断幕を掲げ、3年ぶりの再会に目頭が熱くなった。「帰ってきたんだなあ」。ここでまた始まるという実感がわいた。現任校では2年担任をさせていただき、学年団の先生方に支えていただきながら仕事をしている。振り返ってみると、在外教育施設での長期研修を志望したとき、その理由を教員としての力量アップのためとして、ペナンに渡った。力量アップとは具体的に何なのかかわからないままだった。ペナン日本人学校では、目の前にある自分の仕事を全力でやった。授業以外の業務が多くとも、授業の準備を怠ることは1度もなかった。自分にできることをこつこつとやり続けた。しかし、これは日本でもできることだった。力量アップとはこのようなことなのだろうか。月日はあつという間に過ぎ、派遣3年目となった。1、2年目の先生方のリーダーとなり、支えていかななくてはならないこの年に、自分にとって最大のピンチが訪れた。20年の教員人生で最も苦しんだ時期であった。そんな私を救ってくれたのが、同僚たちであった。夜、学校に残って仕事をしていると、シニア派遣の先生を始め若い先生方数名が、私の所へやって来て「山崎先生の応援団がこれだけいるんだからね。やれることは手伝うから何でも言って！」と声をかけてくれたのである。涙があふれそうになるのを必死にこらえた。狭い日本人社会であるからこそ、日本にいるとき以上に仲間存在は大きかった。人の力をお借りできるような良好な人間関係をつくることのできるというのも立派な教員の力量ではなかろうか。在外教育施設へのチャレンジのきっかけを与えてくださった方々、推薦状を書いてくださった校長先生、面接練習を繰り返ししてくださった国際理解研究会の皆様、ペナン日本人学校でお世話になった方々、その他お力添えをいただいた大勢の方々に感謝申し上げたい。皆様から学ばせていただいた教員の力量というものをこれからも高める努力を続けていきたい。後日お酒の席で教え子の一人が私に質問してきた。「ペナンで学んだことは何ですか?」。私は良好な人間関係をつくることについて話をした。すると「中学のとき、そんなことを先生よく言っていましたよ!」と。自分が言っていたことが、今やっとな腹に入ったことに気づかされた。

